

ひねのしょうおおぎ 日根 荘 大木のかんがい用水群

～ かいしがわ 梶井川により形成された複数の河岸段丘面の傾斜とコミュニティを活用したシステム ～

貴族九条家が開発したひねのしょう 日根 荘 が成立した 1234 年以降、現在までつちまる おおぎ 土丸・大木地区には 11 の水路と貯留機能を担う 10 のため池、各水路への取水機能を担う 6 つの井堰が残っています。

これらの用水施設は、現在もそのまま継承され利用されており、土地改良区を軸に町会・番単位でおおぎ 大木地区内の谷や複数の河岸段丘面の最大 60～70mある傾斜を活用した水利システムです。特にむらまちじだい 室町時代から傾斜を利用した河岸段丘面の開発が進められることで田地開発が進み、農業の発展や食料の増産に寄与しました。

ひねのしょう 日根 荘 成立に伴って実施された調査記録に残る水路の一部は、今もその姿を見ることができ、古い時代の水利利用の形が現在まであまり崩されずに継承されています。



ひがしのいけ
東ノ池



しょうぶい
菖蒲井



ひがしのいけ たなだ
東ノ池の棚田



日本国内位置図（縮尺）